（別紙1）

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業　教育・研究活動事業実績報告書

<table>
<tr><td>教育･研究活動名</td><td colspan="5">尼崎市のこども食堂とアジアをつなぐカレーフェス</td></tr>
<tr><td rowspan="2">申請大学･高校等名</td><td>大学･高校等名</td><td colspan="4">武庫川女子大学</td></tr>
<tr><td>活動　グループ名</td><td colspan="2">美味しい漢字教室</td><td>参加学生等人数</td><td>35 人</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指導責任者名及び連絡先</td><td>学部･学科等名称</td><td colspan="4">教育学部　教育学科</td></tr>
<tr><td>責任者氏名</td><td>吉井　美奈子</td><td>連絡先電話番号</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>E-mail</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">協働する市民活動団体及び代表者名</td><td>団体名</td><td colspan="4">モコモコ倶楽部</td></tr>
<tr><td>代表者氏名</td><td>小林　三枝子</td><td>連絡先電話番号</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>E-mail</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>教育･研究活動目標</td><td colspan="5">本活動では、尼崎市の子ども食堂（モコモコ倶楽部）の子ども達やスタッフと武庫川女子大学生との交流を通して、子ども達に各国のカレーを味わって交流することを目指した。
コロナ禍の影響を受けにくくなり、調理や実食の場を共有できるであろう 2023 年度は、カレーの調理や共食により、国際交流も視野に入れた活動へ発展させようと試みた。
子ども食堂に通う子ども達やスタッフの食育と国際感覚を伸ばし、一つのメニューでも各地域･国によって異なる文化を持つことを大学生と共に学び、参加者の食やアジアに対する関心を高めることを目標とした。具体的には、尼崎市内のカレー料理を提供する店舗情報を学生自ら収集し、そのスタッフとの交流を通じて、カレーの情報だけでなく、その背景にあるスタッフらの祖国やルーツを知り、尼崎市内の子ども達や子ども食堂のスタッフへ共有することで、学生自らが中間キーパーソン（コネクタ）となることを目指した。</td></tr>
<tr><td>活動内容及び実績、評価</td><td colspan="5">（活動内容及び実績）
･できるだけ活動内容のわかる写真等を掲載してください。
（評価）
①学生等　②市民活動団体の活動者　③指導教員の視点を踏まえて、次の項目について評価･分析したものを掲載してください。
･想定していた活動成果に対する達成度合い（達成できたこと、できなかったこと等）
･学生等が関わった地域、団体の活動の変化等
･学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化等

（活動内容及び実績）
本活動では、尼崎市の子ども食堂（モコモコ倶楽部）の子ども達やスタッフと武庫川女子大学生との交流を通して、子ども達との関りを深めるとともに、子ども達にとっても学生らとの交流を通して、食文化に関心を持ち、子ども食堂という場で心の癒しを得ることや、学びに繋がる経験ができた。また、学生らは子ども達との交流によって、社会課題に目を向けたり、自分たちができることについて考えたりすることができた。加えて、子ども食堂のスタッフとの交流や尼崎市内のスパイスカレー店へのヒアリング調査、そして自分たちの活動の発信（尼崎市民まつり、武庫女フェスへの出展、報告会の実施等）によって、自分たちの活動を広めることができた。
一方で、当初の計画では、スタッフとアジア各国を ZOOM で繋いで各国のカレーを教わりながらカレーを作って国際交流することなど、カレーを通じた国際交流･地域交流を目指したが、協力先の別の大学との連携が取りにくく留学生や海外との ZOOM でスタッフとのやり取りを実施することは出来なかった。しかし、国際交流やアジア各国に関心を持っ</td></tr>
</table>

	て活動をすることの目標は変更せず活動してきた。 　活動について具体的には、以下の通りである。 ・尼崎市内のスパイスカレー店にヒアリング調査に行き、スパイスカレーについて、海外との繋がり、子ども向けのスパイスカレー等について調査した。ヒアリング調査等の実施。 ・これらの調査を基に、子ども向けスパイスカレーのレシピ提案、試行を行った。 ・子ども食堂のスタッフの方々に、子ども向けスパイスカレーレシピを提案するため、スタッフの方と共に調理を行い、その中から子ども達に向けて作ってみたいスパイスカレーを決めてもらう等の交流を行った。 ・これらの結果も含め、「あまがさきスパイスカレーマップ」を作成。ヒアリングに協力してくださったお店の紹介と共に、子ども向けのスパイスカレーのレシピを提案した。 ・尼崎市民祭りでこれらの活動の紹介、及びマップの配布、子ども達と漢字イラストの塗り絵を楽しみながら、漢字クイズ等で交流を深め、子ども食堂の取組紹介をした。 ・ららぽーとで行われた「スマイルフェス」で活動の報告や漢字クイズなどを実施し、あまがさきスパイスカレーマップも配布した。 （評価） ①学生：尼崎市内のスパイスカレー店にヒアリング調査に行くことで、尼崎市内に様々な国籍の方が生活していること、その方々との交流を行うことで身近に感じたり、海外の食に関心を持ったりすることができた。またこれらの活動を子ども食堂の支援者と共有し、レシピの検討、試行、調理実習を通して、子ども達にどのように伝えるのが良いかを再考する機会となった。学生らがコネクタ（中間キーパーソン）になりつつあることが実感できた。 　また、学生らは実際に尼崎市での調査や子ども食堂の活動に参加することで、尼崎市の特長や子ども達の生活への関心を高め、大学からの距離も近いことにも気づきながら、馴染みのある場所として定着した。子ども達に向けたクイズを考えることで、自分たちの知識の振り返りや子ども達への接し方などの学びの意欲につながった。支援者の方々との関りにも触れ、自分たちの地域や子ども食堂での役割などを考えるようになった。また、子ども食堂に来る子ども達が、必ずしも「貧困」を背景にしないことも知り、「集いの場」としての意義などにも気づくことができた。 ②市民活動団体の活動者：コロナ禍が明けつつある中で、子ども達の参加も増え、大学生の補助や関りに対して、とても高評価の意見をくださった。クイズ等での子ども達の活動支援だけでなく、学習支援に繋がったり、一緒に時間を過ごしたりすることについても有難いという感想を頂いた。大学にもお越しいただき、学生と共に調理実習を行った際には、支援者の方からも新しい視点や発見があったというコメントを頂いた。また、スパイスカレーの各提案について丁寧に感想やご意見を頂き、すぐには難しいけれど、またスパイスカレーのメニューを入れたいと考えているというコメントを頂いた。継続的に学生らとかかわりを持っていただいていることから、信頼も厚くなってきており、学生らの支援が役立っていることを実感できるようなお声を学生らや教員へくださっている。 ③指導教員 　今年度、他大学との交流や留学生との交流などを通して、学生らに日本以外の文化に触れながらも、子ども達へ伝える役割をして欲しいと考えていたが、計画していた相手先に実施時間をうまく合わせることができず（本学の教育学部の授業が詰まっていることも原因）計画変更を余儀なくされたことは残念であった。一方で、活動者（支援者）の方と共にスパイスカレーを調理する機会を学生らに持たせることができたり、尼崎市をフィールドとして学生主体でヒアリング調査が行えたりしたことは、学生らにとって大きな成長となったと考えている。また、こちらでフォローはしたものの、自ら電話でお店の方に連絡し、アポイントを取って調査に伺う、ということが実行できたのは、改めて教員が持っていた学生らの主体性や行動力を再認識することに繋がった。 写真は別紙

※　報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。

活動に関する写真

＜尼崎市民まつり＞

＜子ども食堂での活動（抜粋）＞

スパイスカレー作り

クリスマス会

漢字クイズに正解したらもらえるシール